



SANJO ROTARY CLUB

三条ロータリークラブ

週報 No. 44

2011.6.8 (No.2641)

第2560地区ガバナー／東山 昕也  
会 長／樺山 仁  
会長エレクト／山田 富義 (クラブ奉仕A)  
副 会 長／杉山 幸英 (クラブ奉仕B)  
幹 事／明田川 賢一  
S A A／若槻八十彦  
会 計／松永 一義

例会日／毎週水曜日 12:30～  
例会場及び事務局／  
三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店内  
例会場／TEL 34-3311  
事務局／TEL 35-3477 FAX 32-7095

E-mail : sanjo-rc@cpost.plala.or.jp  
http://www.soho-net.ne.jp/~rotary/  
(~はshiftを押しながら“へ”のキーを  
押してください)

■本日の出席会員数:52名中34名  
■先々週出席率:68.75%

【ゲスト】

・2011-12年度 第4分区AG  
山田文雄 様

【先週のメイクアップ】

[6.2] 三条ローターアクトへ  
・樺山 仁さん、 山田富義さん



「地域を育み、大陸をつなぐ」

2010～2011年度国際ロータリーのテーマ

「ガザニア」



会 長 挨拶

樺山 仁 会長



御挨拶致します。

我々仕事を営む上で、ポリシーがあります。その一つをお話しします。

「事業は尽きる事がない永遠のものであり、その為には日に新たに絶えず己を更新してゆかねばならない」

我々毎日の仕事の中で考えさせる事は、「企業は時代の流れを読み、絶えず変化し続けていかねばならない」と言う言葉を、(株)不二越「NACHI」創業者の井村荒喜氏がおっしゃっておりました。

継続は力なりと良く言われますが、いかに企業の体質を変えながら継続して行く事が、当たり前でなかなか難しく、我々の日常でその事が一番大切な事と思われまます。

井村氏は中越水力発電所の支配人の時代、発電機の機材の据え付けを通して、日本の機械工具が海外に大きく立ち遅れている事に憂慮され、そして「機械工具の自立こそ、日本の産業を発展させる基礎である」と言う使命感の下、自身で機械工具の国産化を図る事を決意され、1928年に「不二越」を設立し、精密切削工具まで事業を広げ、製鋼事業を世界水準にまで高め、各事業部の製品を伸ばして、企業を成長させて行った訳です。日本の機械工具分野の発展に、大きく寄与した訳です。

「人間は地位が上がれば上がるほど、役得を捨てて役損を

考えろ」この言葉は、「高い地位にある者は、重大な責任を担っている事を自覚し、自身に与えられた義務を果たさなくてはならない」と言う事で、戦後の復興の為に既成概念にとらわれず、強力な実行力で通商産業省を作った、白洲次郎の言葉であります。白洲次郎は言葉通り、日本国の運命の大切さと責任を担って、「プリンシプル(筋を通す)を持って人生を歩む」と言われて、人生を歩んで来た人でした。

毎日の仕事の中で、我々が必ず大切にしているポリシーを、再認識したいものだと思います。

とかくなる様になると、イージーな考えになりがちですが、企業も個人とも同じで、志を高くしたものにチャレンジして行く事、その行動力が人生の生き様を表にするか裏にするかの大事な事として、評価されます。いかなる時でも信念を貫き、努力し挑戦して、ポリシーを持った生き方をして行きたいものです。

今日はポリシーについて考えて見ました。

挨拶を終わります。

## 幹事報告

### 明田川賢一 幹事

◎石本ガバナー・エレクト事務所より、5月21日に行われた地区協議会の当日撮影写真と田中毅講師の講義資料をまとめたCDが届いております。

◎映画「育子からの手紙」三条上映委員会よりチケットをお預かりしております。

三条RC後援/チケット代金 ¥1,000

ご希望の方は事務局へどうぞ。

## ニコニコBOX

山田文雄 様 (見附RC)

2011～2012 第4分区アシスタントガバナーです。

一年間、よろしく申し上げます。

樺山 仁さん

今朝、ソユーズ2号が宇宙へ打上げられ、みごと成功でした。すばらしいことです。

今日の卓話の荻根澤会員に期待して！

山田富義さん

山田AG様、三条クラブへようこそおいでいただきました。

私の親戚のようです。

次年度は、よろしく申し上げます。

荻根澤会員、卓話ありがとうございます。

佐野勝榮さん

山田AG様を歓迎します。

荻根澤さんの卓話を楽しみにしています。

荻根澤隆雄さん

今日は私の駄弁を聴いていただくことになり申し訳ありません。

昼寝でもしててください。

菊池 渉さん

斎藤さんに相談しても、小越さんにしても、ましてや山田さんに相談してもかかないませんが、ウエストが太って、夏のズボンがはけません！

若槻八十彦さん

第4分区AG 山田様、ようこそいらっしゃいました。

荻根澤会員の卓話に期待しております。

斎藤弘文さん

成田秀雄会員が、県展の写真の部で入選しました。本当におめでとうございます。

成田秀雄さん

県展写真の部に入選できました。

庭の松に感謝です。

五十嵐昭一さん

たびたびの卓話ご苦労さんです。

平原信行さん

ありがとうございます。プログラム委員長、卓話ご苦労様です。感謝致しております。もう少しです。

捧 賢一さん、熊倉昌平さん、石橋育於さん、小出子恵出さん、小越憲泰さん、西山徳芳さん、会田二郎さん、高橋 司さん、伊藤寛一さん、佐藤純二さん、杉山幸英さん、渡辺 稔さん、明田川賢一さん、川瀬康裕さん、船越正夫さん、  
歸山 肇さん

荻根澤会員、本日は卓話ありがとうございます。楽しみにしております。

6月8日分 ¥30,000

今年度累計 ¥1,070,000



## 卓 話

### 「雑感その4 (不満が一杯)」



大陸

荻根澤隆雄 会員

昨年9月頃にふと思った事があります。それは自分も含め人の生き方は「選択の連続性なのだ！」と。選択の連続性については後で触れます。人は生れるべくして生れた、望んで生れた、望まれて生れた或いは必要とされて生れた、必要だから生れた、親を選んだ、親から選ばれた、地域に必要とされて生れた、地域を選んで生れた、日本人として生れた、日本に必要とされて生れた、大きくはこの地球で生れた、この地球を選んで生れた、あるいはこの宇宙に必然的に生まれた？答えは自分で出せば良い。

そして人生最大のテーマは「如何にして生き、如何にして死す。」以前にもお話をさせて頂いた中に品質の事を取り上げたことがあります。品質工学的に言いますと品質とは世の中に生まれてから無くなるまでに社会に与える損失の度合い、即ち世の中ほどの程度の損失を与えたかどうかであります。

社会に与えた損失の度合いが少なければ品質としては良で、与えた損失が大きい或は多ければ不良であり、世の中に与えたダメージの度合いとも云えます。

ダメージと云いますと、今回の東日本大震災の影響を受けまして東京電力の福島第一原子力発電所が今現在も大変な状況に陥っております。加えてこの事故に関しての政府説明或は原子力安全・保安院、そして渦中でもあります東京電力の説明には不信を抱く部分が余りにも多く相変わらずの隠蔽体質も含め疑念、疑惑加えてお粗末な愚作で避難を余儀なくされた地域民からしたら憤懣やるかたない気持ちで一杯かと思えます。今後の賠償額も含め被害者達の要求に似合った補償を履行出来るのか疑問視する部分が多くあります。

石油代替えエネルギーとしての原子力発電、当初はクリーンエネルギーとして国策で推進されてきました原子力発電もここに至っては是非論に発展してくる訳で電力供給に関しても大きな岐路に立った日本国であります。

曾ては私も原発推進賛成派でもありましたが、今となっては立ち止まって見直しも含め考え直す機会でもあるかなと思っている昨今ですが、菅総理の浜岡原発停止要請に至っては其後の影響を考えると非常に腹立たしいものがあります。

プラス影響とマイナス影響などの検証なんか全く

行っていないと思わざるを得ません。所詮傀儡総理レベルかと思いましたが、場当たり発言が揶揄されておりますが当然かと考えます。

今回の原発事故を問題視しての話になりますが、先ほどの品質工学的観点からすれば福島第一原子力発電所はとてつもなく社会に悪影響を及ぼしており、且つ進行形で収束時機が読み切れない等である事からどれ程までの品質不良と云わざるを得ないと感じます。宇宙から見た地球規模から見ればちっぽけな事故かも知れませんが地域社会はもとより国内外ともに与えている損失は計り知れないものである事は皆様も同じく感じておられる事と存じます。

そして天災から派生した事故ではありますが、災害直後からの対応・対策を誤れば人災と化す代表例では無いでしょうか。

工学的に考えればこの様な事故を起こす要素が設計の段階から既にプログラミングされていた訳でもあります。様々な危険因子を100%想定かつ見出す事は不可能でありますし、仮に想定された危険因子を全て回避する事はコスト面においては費用対効果が優先されますので形の有無を問わず絶対と云っても過言では無いほどに危険要素が必ずあります。

いざ問題が起きた時に俊敏且つ正しい判断と行動が出来る方を能力があると云い、人の上に立つ品性と云うものであると私は思っております。

第一原発の吉田所長は中々の人物かな思いました。それが普通なんかも知れませんが気骨のある方は目立ちます。

今回の原発の事故を受けての政府の避難指示方法に対しても最悪の状況を考慮しないで場当たりでの段階的な指示で被災地域の方々を狼狽させた事は既に人災と言わざるを得ません。他国の原子力事故を踏まえてないのではないかと思ったのは皆さんも同様と思いますが如何でしょうか？

冒頭に選択の連続性とお話を致しましたが、究極的な捉え方をすると人は常にYESとNO、あるいはGOとSTOPの何れかの選択をしているのだと思います。即ちゼロか1と考えれば今流の言葉で言い換えれば人の思考はデジタルでありデジタルの集合体の中にアナログが作り出されるのだと自分なりの考えとして持論におります。

選択時の判断能力即ち可否に加え判断速度がその人の能力を決めているとも思います。

そしてそれがいざと云うべき事態の時に能力が発揮出来る方が素晴らしい人間かと思えます。

とりわけ私は「可」を選ぶべきところで「否」を選び「否」を選ぶべきところで「可」を選ぶ間違い



の多さと判断速度が幾分おそい事で今日の自分が形成されております。

そんな私が「可」として選んで良かったと思っておる事は家内の事であり、あちらは私をどの様に思っているかは別としてですが。

考えてみれば人の出会いは一方的な選択では無く相手にも選ぶ権利がある訳で言い換えれば双方の選択が合致し得た事で縁が出来るものでもあります。イコールこれは選んでいる様で選ばれてもいるのであり、こうして皆様とお付き合いをさせて頂いている事も同様かと思えます。

人の縁とは互いに惹かれるものがあれば繋がりが出来、惹かれるものがなければ繋がらないのであります、人の出会いをこの様な言葉で云われる事もあります。

「触れ合うも他生の縁」等の言葉を耳にする事もあります。今こうして皆様とご一緒させて頂いて居るのは今日偶然に一緒になったのでは無く以前の約束と云いますか決められて居たのだと云う事です、その様に既にプログラミングされていたのです。

との解釈ですが「他生の縁」については専門家の菊池さんにお任せ致します。

先ほどの「生まれてから無くなるまでに社会に与える損失の度合い」を示した品質工学ですがこれは物に対しての話で、これを人や団体組織にも置き換える事で話が面白くなる訳であります。

加えて法律にも当て嵌めてもそうであります、法律は生まれるとも言いますので言い得て妙であるのではと思えます。

あの人の考えや行いが社会に悪影響を及ぼすとか、あの団体のやっておる事が地域に害悪である、とんでもない組織であるとか。この法律があるばかりに国民が辛い思いをしているとか犠牲を強いられている、特に法律は極一部の方達が己の都合を優先する部分が垣間見えるので困ったものである。

悪影響、害悪、犠牲云々は社会の損失とも思えます、如何でしょうか？

私は阪神淡路大震災の時に思ったのですが国家は「国民の生命と財産を守る義務がある。」と思っ

た一人でもあります。故に国民の義務の一つとして納税をしている、税金は言い換えれば保険料でもあると考えております。だって生命と財産を守って貰えるのですから。

私は国民と国の関係は互いの義務を履行する契約が結んであると思っております。

大きな災害時に遭遇した被災者たちが「日本国民で良かった」、「日本人で良かった」と思っ

た手厚い支援或は対応が何故に今の日本政府は出来ないのだろうか、況や国民あつての国家でもある。

東日本大震災の被災者のみならず原発事故で避難を余儀なくされている方達は国の対応に対し今どのような気持ちでいるのかは私の想像を遥かに超えている事でしょう、どんなにか辛い、悲しい、切ない、苦しいなど言葉では表せない気持ちで一杯なのではないでしょうか。少なくとも国に感謝の気持ち等微塵も持っていないと確信する。亡くなられた方達には申し訳ないが今災害で生きながらえた方達をどの様にして救うかが国の義務ではないかと思う気持ちで一杯である。

被災者の方々の憤懣が一杯の現状の対応を致しております。国からは「絆」と云う言葉は発して欲しくない気持ちであります。

その昔、聖徳太子は竈の煙の上がる様で民の暮らしを想い量ったとも伝えられております。今の国民の統率者は何を以ってして国民の生活を量っているのだろうか？

平常の時は耳あたりの良い事ばかり並べ立てて支持率ばかりを窺い、非常時に乗じて国難だと言っておきながらまだ先の事になります。増税策に走ろうとしている、被災地の復興展望は時間を掛けてやるべき事で地域々々の実情にあった復興策が大事かと思えますが、やはり生計が立つ事に傾注して欲しいと願います。早急に精神的な安定生活基盤を作って上げるべく救済策として先ずは給付金が優先すると思えます、それも額が50万円だの100万円なんて額ではなく一世帯あたりの生活支援額を1,500万円以上や2,000万円以上でのばらまきをするべきと思えます。

それが国家として被災国民に対する義務と考

えます。輪転機をフル稼働してでも金を刷れば良いのであります。

失った財産を全てとは言わないが戻してあげれば国内景気は必ず立ち直りますし、今がビッグチャンスでもないと私は思っています。巡り巡って金は国に戻ってきます、況や国には多額の財源がある事だそう

です。それは多額の対外債権との事。情報発信源は国内では無く隣の韓国は朝鮮日報の記事からですがネットに紹介されておりました。

内容はこうです、日本は巨額の対外債権として約560兆円あり対外債務が約300兆円、差し引き260兆円もの純債権額があり、外貨準備高も100兆円以上あるのだと報道されました。この対外純債権額が震災復興に希望をもたらすとの事です。多く見積もっ



て今回の被災世帯が20万～30万世帯とも云われております。1世帯当たり1,000万円給付しても2兆～3兆円です、倍の2,000万円でも4兆～6兆円、今ほどの対外純債権に対する海外からの返済額は如何ほどか、2%としても5兆円は戻ってくるのですから輸転機をフル稼働して救済しても良いのではと勝手に思っています。

今は財務省ですが 旧大蔵省官僚の最重要哲学に「民は依らしむべくして、知らしむべからず」とあるそうです。

私は官僚が国民をコントロールするには余計なことは知らせるな、ごく一部の官僚が国民に対しある程度の不安、或は危機感を常に抱かせる事により、さも自分達が国家を導いている様に国民に感じさせて思いの俤に国家財産を管理出来るのだとひねくれ解釈を致しました。

実は 論語に「民は之に由らしむべし、之を知らしむべからず、」とありました。日本語訳では「民衆の為に規則を定めてそれを彼らに遵守させることは出来ても、彼らになぜこの様な規則が必要かを分らせることは出来ない、」と訳解されておりました。

考えてみれば何れの国家も王制であれ、大統領制であれごく一部いやほんの一握りの人間が本当の事は知っていても馬鹿正直に裏事情などは教える訳が無い筈、即ち嘘がまかり通っているのが実態で、そうして国を牛耳っているのではないかと思う。

況や国会議員も騙されている、官僚に洗脳されているかと考えます。

国民は更にマスコミに振り回され且つ虚言説を信じ込まされている被害者とも云える、勿論国民全員とは言いませんけど。

此度の災害の被災者たちが悪政による被害者とならない事と一日も早くもとの生活に戻ります事、願っております。

## 「第1回 AGクラブ訪問」

大陸を RI第2560地区 第4分区  
2011-12年度アシスタントガバナー  
山田文雄 様 (見附RC)



私は見附RCのチャーターメンバーとして三条RCさんには設立時に大変お世話になりました。

見附RCは設立時40名のメンバーは今17名に減りました。三条RCは50有余年の歴史を誇り、メンバーも52名在籍しており、こちらでお話をさせていただくのは大変恐縮です。

次年度、石本ガバナー・エレクトはまだ65歳と若く、ずいぶんお酒も飲まれます。

三条RCへの公式訪問は8月10日になります。この6月19日にAGの集会があり、いよいよ7月から新年度がスタート致します。また、バンコックでの国際大会も予定されております。

2011-12年度RI会長テーマは、「こころの中を見つめよう 博愛を広げるために」であります。

私は、「挨拶は短く、幸せは長く」をモットーにしています。

一年間お世話になりますが、ご支援・ご協力をお願い申し上げます。

次週例会 6月22日 会員卓話(予定)

次々週例会 6月29日 夜例会「会長幹事慰労会」  
18:30～ 於 二洲楼

